

第 122 回・日商簿記検定試験 3 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座	受取手形	売掛金
前払金	立替金	未収金	仮払金
貸付金	車両	支払手形	買掛金
前受金	預り金	未払金	仮受金
借入金	車両減価償却累計額	引出金	仕入
減価償却費	発送費	租税公課	支払利息
固定資産売却損	売上	受取利息	固定資産売却益

1. 店舗兼住居用の建物と土地に係る固定資産税 200,000 円と、店主の所得税 150,000 円を現金で納付した。なお、固定資産税のうち 20%については店主個人住居部分に対してである。
2. 得意先足利商店に対して期間 6 か月、年利率 4%で 300,000 円を貸し付けていたが、本日、満期日のため利息とともに同店振出しの小切手で返済を受け、ただちに当座預金に預け入れた。なお、現在、当座預金は 100,000 円の借越となっている。
3. 仕入先細川商店から商品 500,000 円を仕入れ、代金のうち 300,000 円については京極商店振出し、当店受け取りの約束手形を裏書譲渡し、残額についてはかねてより売掛金のある得意先藤堂商店を名宛人、細川商店を受取人とする為替手形（引受済）を振り出して支払った。なお、引取運賃 5,000 円については現金で支払った。
4. 得意先朽木商店に商品 700,000 円を売り渡し、代金のうち 200,000 円はすでに受け取っていた手付金と相殺し、残額については脇坂商店振出し、朽木商店受け取りの約束手形の裏書譲渡を受けた。なお、当店負担の発送運賃 6,000 円については現金で支払った。
5. 平成 15 年 7 月 1 日に取得した車両（取得原価 2,000,000 円、残存価額 200,000 円、耐用年数 6 年、減価償却方法は定額法・間接法で処理）を平成 20 年 8 月 31 日に 400,000 円で売却し、売却代金については翌月の 15 日に受け取ることにした。なお、当社の決算日は 12 月 31 日で、減価償却については月割り計算による。